

英語圏の、「障害」の表現あれこれ

以前に、英語圏では日常、“「障害」に相当する英語表現”は何かを、メル友に尋ねたことがあった。多くの方が、People with disabilities か、Children with disabilities ではないかと返信をいただいていた。つい最近、あるメル友から、わざわざ米国在住の友人からの追加の情報をいただいた。一見に値する情報と思いますので、参考までに紹介します。

【アメリカでも似たような論議は長年あって、1990年頃に、一応法律では person-first language といって person with a disability と、日本語の「障害のある」とか「障害をもつ」に近い表現を使いましょう、という「ルール」ができた。その後、実際に障害がある人たちから、「俺のもつ disability ってのは、そんな俺の端っこにちょこんとくっ付いている extra あるいは subordinate なものではなくて、まさに俺という人間を構成するにあたり非常に core なものなんだ!」、「俺は disabled であるという自我を誇りに思っているんだ!」という声が多く出てきて、今は割りと当事者の中では disabled people という言葉を選んで使う人が多い。】

また、メル友は、Disability is Natural(<http://www.disabilityisnatural.com/>)のHPに、People First Language の例として以下が載っていると紹介しつつ、コメントを聞かせてくださった。

【person-first language とは、「私はまず人間として扱われたい (I want to be treated like PEOPLE FIRST)」1974。

「People with disabilities are people, first. (障害のある人たちは、障害者である以前に、まず人間である。)

「Children with disabilities are children, first. (この言葉いいですね。これを日本語にするのは意外にむずかしい。 - 障害のある子どもたちは、障害児である以前に、まず子どもである。 -)。

She's wheelchair bound/confined to a wheelchair. という表現の代わりに、She uses a wheelchair/mobility chair. のように、単に一つの属性にすぎないもので、その人の全てであると思わせる表現はいけないよ、ということかな。

障害を前面に出すことでは、ネガティブな意味が強調される。同情や憐れみをさそうだけ。そうではなく、その人が必要とするものを明示して、彼/彼女が必要なのは~である。と表現するのが適切ということかな。】